



タカラトミー社製_SORA-Q



反プーチンのリーダー_ナワリヌイ氏_謎の死

一昨日、ロシアの反体制派指導者アレクセイ・ナワリヌイ氏（47歳）が収監中の極寒の地にある刑務所での散歩中に突然の死亡（絶対プーチンによる暗殺！）が伝えられ、世界中に大きな衝撃が広がっています。過去十数年にわたり強権的なプーチン政権に真っ向から対峙してきた人物です。インターネットなどを駆使して政権の不正を告発。2020年8月、ロシア国内で毒殺未遂に遭い、療養先のドイツで旧ソ連の軍用神経剤“ノビチョク”系毒物の投与が確認され、ロシア情報機関（プーチン）の関与が報じられました。死線をさまよったにもかかわらず、“帰国しなければプーチン大統領が勝利し、目的を達したことになる”と対決姿勢を崩しませんでした。21年1月の帰国直後に拘束、裁判で過去に受けた禁錮刑の執行猶予を取り消され、刑務所に収監されました。11年のロシア下院選や12年の大統領選をめぐる抗議デモで主導的役割を果たし、一躍脚光を浴びました。拘束後の21年1月に公開されたプーチンの“宮殿”の暴露動画は、再生が1億回を超えるなど大きな反響を呼んだことでも知られています。ウクライナ侵攻も強く非難、プーチンを“狂った皇帝”と表現し、“（プーチン氏が）ウクライナに対して繰り広げた侵略戦争に気付かないふりをする臆病者”になってはならないと訴え、21年にEU議会が人権や自由の擁護活動をたたえるサハロフ賞を授与、ノーベル平和賞候補としても、たびたび名前が挙がっていました。ロシア国民は偉大なリーダーをまた一人失いました。追悼行動をとった人たち200人以上が拘束されたとのニュースが流れていました。若者たちが“打倒プーチン”に舵切りをしてほしいものです。

先日 SLIM が無事に月面着陸できた事を記載しましたが、よく考えるとあの月面での画像がどんな風に撮影されたか考えてもいませんでした。先日クロスワードパズルの答えで、それが SLIM に同行した小型カメラ“ソラキュウ”だということを初めて知りました。何でも JAXA とタカラトミーの共同開発だとか、おもちゃの世界が最先端技術を支

えていることがとてもステキです。月にいる LEV-2—愛称:SORA-Q—がミッションを達成していることに期待し、月から送られるデータの分析が進むことをこれからも楽しみにしています。東京新聞の読者投稿欄“あけくれ”にこんな素敵なお知らせがありました。

あけくれ 2月15日付

SLIMとドラえもん — 上野重光さん 80歳 東京都葛飾区 —

1月は悲しいことが多かった。今なお続く悲しみを励ますように、探査機 SLIM が月面に逆立ちしたままの軟着陸でおどけてみせた。まるで漫画「ドラえもん」じゃないか。悲喜こもごも、そして笑いの不思議な感動がよぎった。

搭載されたのは小型ロボット SORA-Q 君が親孝行ぶりを発揮して SLIM を撮影したところや、太陽電池パネルが復旧し、本体が逆立ち状態でデータを送信し始めたという復活劇も漫画的だ。SORA-Q 君の開発に参画した企業の言葉『「アソビ発」の新たな挑戦』にも漫画的精神が表れている。

ドラえもんのアニメ「のび太とアニマル惑星」は、宇宙開発と環境保全について強いメッセージを発している。SLIM と SORA-Q 君にはドラえもんのような宇宙の平和大使になってもらいたい。

「次の月面探査機は、七転び八起きのだるま形にしたらどうかしら」とは、わが妻の提案だ。こちらはドラえもんの発想か。

ん〜、“だるま形”かぁ〜、これいいかも？“アソビ発”で実現するかも？JAXA の人たちがこの記事を読んでチャレンジしてみてほしいなと思いました。

二階元幹事長が政治資金収支報告書の未記載分として 3500 万円分の巨額の書籍購入で修正したそうです。まあ、家の中は二階まで本を積み上げて暮らしているのかなと勘ぐってしまいますが、たぶん無理やりだと勝手に思っていますが、領収書や明細は記載されていました。その辺の市立図書館の運営予算でも 1500 万円ぐらいのこと、図書館にある書棚は 1 段で 35 冊、高さ 6 段が一般的だそうです。単純計算すると本棚 142 個分、そんなスペースどこにあるの？って思っちゃいました。東京新聞“本音のコラム”斎藤美奈子さんがこんなふうに論評しています。

3500 万円の使い方 2月14日付

斎藤 美奈子 — 文芸評論家 —

自民党・二階俊博元幹事長の資金管理団体が 2020~22 年の政治資金収支報告書を訂正。3 年間で、約 3500 万円(もう少し正確には約 3470 万円)の書籍代を計上したそうだ。どうやったらここまで巨額の書籍代になるのだろう。

まず「献本」が考えられる。自著を大量に購入して支持者などに送る。二階氏の著書「二階俊博言行録」は1部3300円。1万冊買えばほぼこの金額だ。ただ、この本は23年刊なので先の報告書の対象ではなく、また自著の贈答は公職選挙法に抵触するおそれがあるのでヤバイはヤバイ。

次の可能性は「付き合い」である。知人の著書や自費出版本を買う。1万円の本を3500冊買えばこの金額になることはなる。毎月平均100冊ずつ買えばだが。

一番効率的なのは3500万円の本を1冊買うことだろう。世界的なオークションに出る稀覯本なら不可能ではない。23年英国の競売で落札された『ハリー・ポッターと賢者の石』の初版本は約1千万円。22年に同じ英国で落札されたジューン・オースティンの初版本はセットで約3千万円だった。

とは書いてみたけど、全部非現実的。もっとも疑われるのは会計担当者の手抜きである。二階事務所、スタッフの賃金をケチっているのではないか。でなきゃこんなバカげた数字出るわけないっしょ。

裏金疑惑で更迭された“安倍派5人衆”の松野博一前官房長官が昨年12月1日から辞任した14日までのたった2週間に、使途が公表されない内閣官房機密費を4600万円支出したとのこと。これも権限に則って合法的に遂行されたような口ぶりですが。なんか変！なにも渦中にある人間として国民に不信がられているこの時期にやるようなことじゃないと思うけど、これも“政治とカネ”…とことん汚い連中のようです。もう何を弁明しても浮かばれない、二階さんも5人衆も次の選挙で国民の鉄拳を浴びて“落ちたらタダの人”に戻るべきです。

これも前回に書いた日本たばこインターナショナルの話題を東京新聞“本音のコラム”で三木義一さんが小気味よく論評しています。

煙が目にしみる 2月15日付

三木 義一 — 青学大名誉教授 —

「おや、19日に日・ウ経済復興推進会議が開かれるのか。タバコが問題になるのかな？」

「え、何ですか？」

「本紙日曜の特報欄でも報道されたように、昨年8月頃からウクライナがJTIを戦争支援企業と批判しておる」

「JTIって日本たばこ産業の子会社ですか？」

「もう本部機能が移転されており、JTIが中心だ。2007年以後はロシアたばこ市場のリーダーとなり、18年にはロシアの大手たばこ会社を買収し、ロシア連邦予算歳入の1%以上の税を提供しているそうだ」

「それじゃ、ウクライナは怒りませぬ。ウクライナを援助しながら、他方でタバコ物品税を大量に納付し、ロシアを支えているわけだ」

「それだけではない。2月8日の報道を見ると、JTIはロシアで初めて新規成下でタバコ製造の認可を取得したようだ。この規制はタバコの違法生産規制のためのようだ。ロシア市場の15%ぐらいが密輸などの違法タバコで、それを減らすために先頭に立っている」

「ますます貢献かい。批判を込めて、日本ではタバコを据えなくする税制にできませんかね」

「1箱千円かの」

「いや、オーストラリアのように1箱3千円にしたらおもしれえ！」

「やり過ぎはいかん」

「おや、どうして？」

「出てくるかも、ロシアからのタバコ密輸！」

アメリカやEUの“戦争疲れ”でウクライナは“弾切れ”状態、それにウクライナの若者たちが兵役逃れで国外へ脱出、ロシアが少し巻き返し気味との報道もあります。イスラエルのガザ地区もなんでもありの市民の虐殺に発展していきそうな気配です。世界はどこへ向かうのでしょうか。東京新聞“本音のコラム”師岡カーマさんの論評です。

軌道微修正 2月17日付

師岡 カーマ — 文筆家 —

「かたや民間人の死者数を批判しながら、同時に何もしないのは矛盾している。死者が多すぎると思うなら、武器の供与を減らすべきだ」。そう言って、ガザにおけるイスラエルの攻撃を「やりすぎ」と言った米バイデン大統領を批判し、イスラエルへの軍事支援を見直すよう促したのは、なんとEU(欧州連合)、そう、「イスラエルには自衛権がある」と言って当初から軍事作戦を擁護してきたEUの、ポレル外交安全保障上級代表だ。何を今さら、というか、よくもまあしゃあしゃあと、というか、呆れた人も多いただろう。いよいよ弁解の余地がなくなったイスラエルの蛮行の責任を、ここにきてちゃっかりアメリカだけになすりつけようというのだから、あまりにもずるい。(そもそも「死者が多すぎる」とはどういう意味だ。民間人の殺害は何人まで許容範囲なのか)。

とはいえこの路線微調整は、ガザ侵攻の実態が曲がりなりにも報道され反戦の世論が高まる中、思考放棄ともいえるべき欧米のイスラエル全面支持派の形勢がいよいよ傾いてきたことに、支配層も焦っている兆しと取れる。近年、新自由主義がもたらした格差や貧困や、それらへの不満を政治利用するファシズムの台頭といったさまざまな害悪を凝縮する表象としてガザの悲劇を理解する若者を中心とした世論は、もはや無視できないのではないか。

すばらしい視点からのコラムです。ミャンマーでも3年前クーデターを起こした国軍がここ数ヶ月、民主派の武装組織や少数民族武装勢力の攻勢を受け弱体化しているとのこと。クーデター後、抵抗する市民4500人が殺害されています。国軍の士気も低下し、離脱者も増えています。街を歩いている若者をそのまま兵隊に引きずり込まれるとか。日本がそんな国にならないよう、ひたすら祈るばかりです。